

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200535		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	グループホームだいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地2		
自己評価作成日	平成24年9月10日	評価結果市町村受理日	平成24年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170200535-00&PrCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成24年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

限られた時間の中で業務としてこなすのではなく、利用者様と生活を共にして、あくまでも主導権は利用者であるという認識の基、利用者の利益と御家族様の介護負担の軽減を求め続けています。恵まれた地域の中で地域の方の助けを借りながら手作り、無農薬の野菜やお米を分けていただき、そのお礼として行事毎に参加していただき、地域交流はとても良好であると思います。
また、毎月行われる行事の中でもレク係つなりのボランティア団体に頼ることも多く、同市ボランティアの方が訪問してくださり、地域密着としての役割の一端が出来ていると思います。利用者様には出来るだけ「自己選択」「自己決定」をしていただけるよう、場面を多く作り、職員本意にならないよう気をつけています。特に「自己選択」では選択数を職員が多く作ることで選ぶ楽しみを得ていただけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう一人ひとりのペースに合わせたケアに取り組んでいる。また、自己決定が出来るように働きかけ、利用者の決めたことに合わせ足りないところを手助けして、利用者が活躍できるよう支援している。地域住民とは、一人で外出した利用者の見守り、ボランティアの訪問、中学校の体験学習の受け入れ、野菜や米をもらったり、行事に参加したりして助け合って利用者を支える関係を築いている。運営推進会議では、排泄や食事形態・外出などの工夫した取り組みが報告され家族の安心にも繋がっている。今回の自己評価を全職員が行うことで、職員は、初心に振り返ることが出来、管理者は、職員の思いや考え・意見を知ることから今後のサービスに活かすことが出来る。常に管理者始め職員は、利用者主体のサービスについて、真摯であり、厳しく受け止め、工夫改善に努めようとする姿勢がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」を理念とし、実践に繋げようとの思いはあるが、管理的な声かけや金銭の個人預かりの廃止など真逆の行動が目立ってしまっている	職員は、常に理念を意識して利用者が自己決定できるように働きかけ、自由に過ごしてもらえるよう取り組んでいる。また、ミーティングなどで日々のケアを振り返り理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と地元の方とのお付き合いははとも少ないが、事業所としては交流がある。しかし、地域の一員でいられているかという点、まだまだである もっと地域に溶け込められるよう更なる地域交流が必要である	利用者が一人で外出した時、近所の方に連絡や車で送ってもらうなど助けてもらっている。また、事業所のための野菜を作ってもらっている。双方の行事や自治会の清掃活動などに参加して交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方は開所当時と比べるととも認知症に対しての理解をさせていただいているが、全員ではないため、地域の方全員の理解を目指して説明会等まではいかなくても日常会話的に理解を得ていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に一度の運営推進会議にて一通りの報告や連絡は出来ているが、家族参加者の少なさがとても目立ち、事業所と行政・地域との話し合いの場になっており、運営推進会議の意味をあまり成していない	会議では、活動やケアの取り組み状況を報告している。家族の出席者が限られているとの意見から、開催日時を家族の都合に合わせて、持ち回りの当番制にした。また、欠席者に議事録を送付して現状を知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に施設長が市町村担当者との交流や連携がある。運営推進会議をはじめ、疑問等も気軽に問い合わせて、サービス向上に努めやすい関係が築かれている	管理者は、運営基準や事業所の問題・権利擁護・生活保護などの相談に行っている。市担当者も出かけた際に、事業所に気軽に立ち寄っている。常に相談をもちかけ協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内講習で身体拘束について勉強したが、正しくは理解できておらず、肉体的拘束はないが、言葉での精神的拘束は非常に多い。声かけの内容によっては利用者の自由を奪っていることがあるため個別に勉強会が必要である	研修・ミーティングで身体拘束に関する勉強をして拘束をしないケアに取り組んでいる。管理者は、利用者の自由を奪うような言葉や声かけについては、その場で注意し、注意事項の確認文書を作成して回覧している。居室や玄関の鍵はかけていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	こちらも同じく事業所内講習を実施した。以前から虐待と思われる事象はないが、職員の会話から荒い言葉が出ることもある。何気ない言葉で利用者が不快に思わない声かけがいつでも出来るようにしていきたい		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、市社協と連携をとり、自立支援事業を使ったり、今後、成年後見制度を利用予定の方もいるため、管理者一人が理解するだけでなく、ミーティングを通じて職員にも理解できるように伝えていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	これまでも契約書、重要事項説明書の改訂が行われてきており、事前に変わる内容を家族に口頭、書面で説明し、サイン、捺印等をしていただくようにしていたが、苦情が出た事実があり、説明不足を認識した。その後、この点に関しては時間をしっかりとって説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からの事業所と家族の関係性から意見等を言いやすい関係にあり、「ご意見、ご提案用紙」契約時に数枚渡しており、それに記入していただくことで家族が決めた範囲で公開し検討・実施に繋げている	面会時に利用者の日々の様子を伝え意見や要望を聞いている。日頃から気軽に要望など言いやすい関係を築いている。家族からの提案で食堂のテーブルの配置を換え、スペースを有効に使っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者自ら月一回のミーティングに参加し、現場の職員から生の声を聞き取り、出来る限り職員が働きやすい職場作りを目指し、実施している	管理者は、日頃から要望など聞き、全職員が参加するミーティングでも聞いている。職員は、ミーティングの前に気づきなど書き込んで意見を言うようにしている。記録の書き方など運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	厳しい代表者、施設長ではあるが、社会保険労務士からの助言を得ながら職員が働きやすくなるよう、時代に合わせながら職場環境の改善を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に施設長が事業所内研修や講師を呼んでの研修を企画・実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は、他同業者(管理者)とのつながりは協議会等を通じてあるが、職員同士の交流については、していない		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センターシートを使用し、家族から本人に関する情報提供を求め、入居前に本人と何度も会い、話を聞きながら顔見知りになったところで入居していただくようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関して、本人のためだけでなく、家族の介護負担の軽減も目的の一つであることを伝え、事業所でできることがあればと家族の不安も取り除くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所の利益だけを求めるのではなく、本人、家族の利益も考え、状態によってはグループホーム以外のサービスを勧める場合もある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員によって様々だが、関わり方によっては「職員と利用者」と完全に一線を引いて関わっているところが見受けられるため、「暮らしを共にする者同士」を考え直す機会を作りたい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	やはり、「利用者の家族と職員」という関係だけみてしまっている場合があり、家族だからと何でも押しつけようとする意見もある場合がある。家族の事情等を勘案した上で、事業所と家族が手を取り合って本人を支えていけるように話し合いたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の多くが家族との関係性が入居時よりも薄れていっている方が多く、馴染みの人やその人との関係性、馴染みの場所等は皆無となっている	以前と比較すると利用者の外出は少なくなっているが、家族と協力して美容院や墓参り・自宅などへ出かけている。知人がお菓子を持って尋ねてくることもある。また、個々の写真入りの年賀状を作成する支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は把握しているが、把握しているからこそ、不仲な関係性の場合には職員自ら孤立させてしまうことがあり、それを支え合えるような関係作りを…というケアまでは出来ていない		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	数名ではあるが、施設長が他施設へ移られた方の家族と面会をして、現在利用しているサービス事業所の邪魔にならない程度のアドバイスをしたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日の中で決まり切った事柄は本人の希望等の把握や自己選択を行っているが、決まり切ったことだけでそれ以外に関しては職員本意で決められている	夜勤や居室でケアをする時に、思い出話から暮らし方の希望などを聴いている。外出・入浴・服装・飲み物など自己選択できるよう働きかけている。利用者が安心して話しかけられるよう笑顔を絶やさないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にセンターシートで出来るだけ詳細に記入していただき、入居時には職員が大凡の生活歴等の情報が共有できている状態になるように介護支援専門員が努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らし方(生活リズム)に関しては、本人主体で希望が叶えられていると思う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、計画作成に関しては、直接本人や家族と話し合いながら作成することは出来ていない。介護支援専門員、担当職員とでモニタリングをし、作成後の介護計画を家族に送付しているため、モニタリングのやり方の見直しがひつようである	ミーティングで話し合った評価と、担当職員が作成する計画案をもとに介護計画を作成している。家族の意見は、直接聞くことはないが、近況報告と一緒に送付して聞いている。また、状態の変化時は、かかりつけ医に相談して意見を取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ここ最近で、個別記録用紙等の書式が変更になり、時間記入方式となったことで、記入される情報量が減り、日々の様子の詳細が以前よりわかりにくくなった 白紙で一日を終えることも珍しくないため、介護計画の見直し材料としては不足していると思う		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は、現状を支えることで精一杯になっているため、柔軟な支援やサービスの多機能化は出来ていない		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を知ることが出来ていないため、周りには多くの地域資源があるが、活用できていない。地域資源とは何か、それによって何ができ、変わるかを勉強し、利用者の日々の生活に関わっていけるようにしていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を持たない方には事業所の協力医療機関を紹介し、昔からのかかりつけ医がいる方はそのまま継続していただいている	かかりつけ医への通院は、家族の付き添いを原則としているが、緊急時は職員が付き添っている。本人・家族納得の上協力医に変更する利用者もいる。利用者の状況や病状を報告し合って情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場に看護師が1名常勤しており、勤務時はもちろん、休日等でも急変時の電話対応、休日出勤などにも応じてくれる判断も速く、各利用者の主治医との関係もあり、その時の状況に応じて適時適切な医療対応ができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長、看護師が入院中に見舞いがてら担当看護師等と話し、情報交換を行っている。常に事業所は受け入れ体制である状態を保持し、急な退院にも対応できるようにして、病院側にその旨を伝えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針として、終末期ケアはまだまだ事業所の力不足から、終末期を迎えた方には出来るだけ医療サービスに切り替えを行っているが、ゆくゆくは事業所での看取りも出来るように研修、勉強会等を重ねていきたい	契約時に事業所の現状と今後の方針を説明している。状態が変化し医療行為が必要になった場合、事業所の出来ることを伝えて話し合っている。最近看取りを行ったケースがある。今後も看取りが出来るように研修や職員のケアを課題にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練等を行っているが、常に頭に残っているわけではないので、年に3~4回くらいは救急訓練を行える環境を作っていきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間の地震、火事等を想定した訓練はしているが、夜間の訓練はまだない。地域の方も快く参加・協力して下さるため、特に夜間一人での勤務となるため、今後訓練内容に盛り込んでいきたい	隣接する喫茶店に避難訓練の案内を張り出し参加を呼びかけている。消防署の立ち会いや地域住民の参加を得て年2回訓練を行っているが、夜間想定訓練が行われていない。また、米のみ備蓄している。	人手の少ない夜間にも地域住民の協力が得られるよう、早急に夜間想定避難訓練を実施してほしい。また、食品・飲料水・生活用品など備蓄も整えてほしい。

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけの言葉、大きさ、タイミングに関して問題が多く、行き先のわからない誘導や、プライバシーに配慮ない友達同士の会話等、礼を軽んじた会話が聞かれる。また、地の言葉もそれだけに囚われ、相手を見ない言葉かけがある。常に言葉かけには気をつけていきたい	職員は、利用者の人格を大切に目上の方として接するよう心がけている。丁寧な言葉で話しかけたり、大きな声にならないよう筆談で会話したりしている。しかし、職員の都合で利用者に不安を与えるような声かけや言葉づかいをすることもある。	利用者に解るような声かけや相手を見て話すように、常に利用者を尊重した言葉づかいや声かけをする姿勢を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日、決まり切ったことだけは自己決定が出来ているが、それ以外では職員の都合で決まっている事がほとんどとなっている 希望を言えるのは数名のみとなっており、自ら希望が言えない方もみえる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一部の方のみで、他の方は職員の声かけによってその日の動きが変わり、本人希望での支援はあまり出来ていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2～3ヶ月に1度の外出時には身だしなみを整えて行くことがあるが、服を着替えるのみで、他のおしゃれ(化粧等)はしていない		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等はやっていただくが、声をかけて利用者のみで行っていることがほとんどの場面であり、利用者が台所に立つことはほとんどなく、ほとんどが職員が後片付けまでやっている食べることに限っては楽しみだと思ふ。	利用者と一緒に会話をしながら楽しく食事をしている。利用者には、調理や食器洗いなど、むずかしくなってきたが、皮むきや下ごしらえなど利用者の出来る力を活かすよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べて体重が増加すれば食事を減らし…という体重の増減を図るには悪循環となっている。カロリー確保は十分出来ているが、バランスについて、献立を作る職員により摂取カロリーの差があるため、一致していない。水分量に関しては水分補給を通じて適時、摂取出来ている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをして口腔ケアを行っているが、本人が拒否された場合、時折、その後に誘うこともなく口腔ケアをしないまま次の食事が始まることもある。状態によっては、磨き支援を行っているが、出来る限り自分の手で磨いて戴くよう支援している		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけて大凡のパターンを掴んでいるが、あまりにも簡単に紙パンツとパッドの使用がされているため、自立支援は出来ていない	紙パンツなど使用している利用者もいるが、個々の排泄チェック表から習慣を把握して、声かけてトイレ誘導をしている。夜間は時間を見計らい、トイレに起きてもらうことで、失敗を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては薬に頼っている 食事や水分での便秘予防はあまり提案としてあがらず、簡素な便秘予防薬が使用されることがほとんどで、予防への取り組みはなく、便秘後の薬剤投与となる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日、時間は決められているが、拒否をされれば、時間の変更は出来る。あまり遅い時間になると次の日やその先に延びてしまう場合があり、気候によって浴槽に入れる日とシャワー浴のみの日と職員本意で決めてしまっていることがある	入浴日時は決まっているが、希望すれば毎日でも入浴できる体制がある。同性介助に配慮し、準備を一緒に行い入浴を楽しめるようにしている。嫌がる人には、タイミングを見計らって声かけしたり、時間を変更したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンがあるため、必要に応じて温度調節を行い、気持ちよく休んでいただけるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を頼りに看護師を頭として職員が把握できる状態となっているが、理解できていないことも多くあるため、服薬支援に関して様々な原因から来る服薬ミスなどがたまに起こることがある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一部の方のみに頼り、他の方にはできない等の固定観念から残存機能を活かした生活や楽しみ事等はあまりない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前に比べ、外出は極端に減り、外出出来る方も職員が選び、限られるようになったため公平な支援が出来ておらず、本人の希望先への外出は全くない	外出の回数が少ないとの思いがあるようだが、近所への散歩やカラオケ教室・ドライブなどに出かけている。中学校の文化祭・花見・買い物・外食などにも出かける支援をしている。また、家族と一緒に墓参りや美容院などに行けるよう家族に協力を依頼している。	

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年8月より職員の意向により、入居者の小口現金を職員が扱うことがなくなったため、職員と共に買い物をし、お金を使うことの支援は事業所では今後出来ない状態になっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという要望があれば事務所に設置されている電話を使っただいている。手紙は広告の裏等を書くことがあったが、家族まで伝わったことがない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ、季節を感じられるような飾り物を派手にならないように飾り、職員からみて居心地が良くなるように余計な物を置かないようにしている 夏の間の日差しにはもう少し和らげる工夫がひつようである	玄関・食堂・リビングは、日差しが入り明るい空間である。出来るだけ洋風な物を置かないように配慮している。食堂の奥にある和室で昼寝をしたり、ソファでテレビを見たりして思い思いにくつろぐことが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どうしても一箇所に利用者を集めるような声かけが多くなっているが、自分で訴えが出来る方には居室で過ごしていただいたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切な物や思い出のある物でも、居室が整理できないためと自宅に戻してしまっている。職員が仕事をしやすい居室作りになってしまっているため、誰のためのグループホームなのかを考え直す必要がある	使い慣れた筆筒・ベッド・家族の写真やさまざまな好みの備品を持ち込んでいる。家具や備品などの配置を、職員が行うこともあるが、本人と家族に好きなように配置してもらうようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほとんどが職員の声かけによって生活リズムが出来ていることがあり、リビングにいてテレビ・ビデオを見るのがほとんどのため、自立した生活というのが出来ていない		